

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：一般社団法人 しなの福祉教育総研	所在地：長野県上田市真田町長 6918 番地 1
評価実施期間：H30年7月1日からH30年10月30日 * 契約日から評価結果の確定日（通常、評価結果報告会日）まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 061243、B16023、B18051	

2 福祉サービス事業者情報（平成30年7月現在）

事業所名：ながと保育園 (施設名)	種別：保育所
代表者氏名： 長和町長：羽田健一郎 (管理者氏名) 園長：山本あつ子	定員（利用人数）：150名
設置主体：長和町 経営主体：長和町	開設（指定）年月日： 昭和・26年11月1日
所在地：〒386-0602 長和町長久保507-1	
電話番号：0268-68-2372	FAX番号：0268-68-4011
ホームページアドレス： https://town.nagawa.nagano.jp	
職員数	常勤職員：20名 非常勤職員：4名
専門職員	(専門職の名称) 保育士 24名
	栄養士 1名
	調理師 3名
施設・設備	(居室数)：保育室8、乳児室1 (設備等)：遊戯室1、トイレ6、調理室1

の概要	ほふく室1	医務室1、事務室1、園庭
-----	-------	--------------

3 理念・基本方針

【理念】

長和町教育大綱～豊かな人間性を育む、ふるさとを誇れる教育～

- (1) 健やかで明るい子どもの育成
- (2) 遊びや様々な体験を通して生きる力の基礎の育成
- (3) 自分の友だちも大切にできる子どもの育成

【基本方針】

- ①健康で明るい子
- ②情緒が安定した豊かな子
- ③仲良く活動し、楽しむ子
- ④意欲的に取り組み、やり抜く子
- ⑤よく見、よく聞き、よく考える子
- ⑥あいさつ・返事がしっかりできる子

{保育方針}

◇子どもの最善の利益を考慮し、現在をよく生き、望ましい未来と生きる力の基礎を培います。

◇人間性を育む乳幼児期教育を通し、基本的な生活習慣や社会性、豊かな情操を培い、心豊かな子どもの育成に努めます。

(保育目標)

〈明るく仲良く元気良く、賢い子どもに〉

- ①健やかで明るい子ども
- ②自分も友だちも大切にできる子ども
- ③夢中になって遊べる子ども

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

ながと保育園は、長門地区の「わかば保育園」と「大門保育園」の統合保育園とし

て、平成 26 年 11 月 1 日に長久保地区の旧長門庁舎の跡地に新築開園した。

長和町は、世界に誇る黒曜石文化と中山道の宿場町として、多くの歴史的遺産と周囲の里山に囲まれた自然環境の中で、人情味豊かな風土環境に恵まれており、町作りの基本構想においても「太古を誇り、明日の輝きを育む郷」と定め、その目標達成のために、家庭、保育園、学校教育、地域が一体となって、『豊かな人間性を育む教育・ふるさとを誇れる教育』の実現を目指している。

ながと保育園は、太陽光、太陽熱による自然エネルギーを活用し、各室には太陽の暖かい空気を室内に取り込むソーラーシステムが導入されている。園舎は地域産木材を多く用いた木造建築で、木の温もりと安らぎのある広々とした居室空間として整備され、絵本広場は、木の香りの中でじゅうたんに寝転んで、くつろげる空間になっている。特に園舎の中央の六角形の遊技室は、地元産のカラマツ材の骨組みで天井が高く吹き抜けになっており、ステージ正面の窓からは長門小学校等町内が一望でき、また、壁面にはボルダリング用のホールドも備えられ、室内でのロッククライミングを楽しむこともでき、さらにダンスレッスン用のフィルムミラーも取り付けられている。

園庭も各室から通じる外廊下は柔らかいゴムチップのマットで敷き詰められ、走り回る園児たちが転んでもケガをしないように配慮されていて、園庭での遊具活動やボール遊びも全て視野に入りやすいように整備され、108 名の利用児が安全で安心して楽しく過ごせる環境になっている。さらに町の子育て支援センターも併設されていて、子育て支援の拠点としての機能も備えている。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	初回
---------------	----

6 評価結果総評（利用児調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

①全体的な職員（管理者・主任保育士・一般職員）のモチベーションが高い

・職員自己評価や職員インタビューにおいて、管理者、主任保育士、一般職員それぞれの立場で、現状分析が的確で改善課題や取り組む姿勢等も共有されていて、全体的にモチベーションの高さが確認できました。

②良質な保育設備が整備されている。

・長和町の『子どもは地域の宝、新庁舎よりも新保育園』の趣旨のもとで新設された、ながと保育園は、地域産木材を多く使用した建物設備と太陽光や太陽熱による自然エネルギーの活用等、利用する子どもたちが、温もりや安らぎの中で、いきいきと育つ環境が整備用意されていました。

③保育の質をさらに高める可能性がある。

・設備等の充実と、個々の職員のモチベーションの高さ等ハード面ソフト面でも、より良くなる条件や可能性がありました。これから、今回の第三者評価の受審結果を組織として共有して、良い面をさらに高め、改善課題への計画的な取り組みにより、さらに保育の質を高める取り組みが期待できます。

◇特に改善が必要と思われる点

①公立事業所として実施母体である町の関係機関、団体との連携を密にして、情報の共有をさらに図っていただきたい。

・町の子育て支援計画や保育事業の中・長期計画の周知や実践については、子育て支援の拠点としての、ながと保育園の役割が重要になります。具体的な取り組み内容を事業計画にも反映できるように町行政の担当部署や関係機関及び関係団体との連携を強化して、情報の共有を図っていただくように期待します。

②標準的保育サービスの実施方法の整備を図っていただきたい。

・保護者アンケートや職員インタビューにおいても、職員の園児や保護者への対応に差異があるとのコメントがありました。標準的実施方法のマニュアル等を整備して、職員研修等で周知徹底を図ることを期待します。

③保育課程に基づいた具体的な事業計画の策定を図っていただきたい。

・単年度の事業計画は、行事計画が主な内容になっていましたので、保育課程と指導計画に基づいた具体的計画内容（数値目標）をさらに図ることを期待します。

④利用児（保護者）ニーズの把握と対応の仕組みを図っていただきたい。

・良質な保育サービスを実践するためには、保護者のニーズを的確に把握して、指導計画や運営にも反映させることが求められています。連絡帳の活用と同様に定期的なニーズ調査や面談の機会を設定していただくように期待します。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

- ・別紙添付(共通評価項目、内容評価項目)

8 利用者調査の結果

- ・別紙添付

